

はくぶつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM '84 9月号

9月の行事

1	土	プラネタリウム 土曜観察会、古文書講読会	15	土	(敬老の日)(休館日)
2	日	プラネタリウム 自然観察会(高松山)	16	日	プラネタリウム、地層観察会 緑の国勢調査
3	月	(休館日)	17	月	(休館日)
4	火		18	火	
5	水		19	水	
6	木		20	木	
7	金		21	金	
8	土	プラネタリウム、石仏を調べる会	22	土	土曜観察会、石仏、プラネタリウム
9	日	プラネタリウム 体験学習「わらそうりづくり」	23	日	(秋分の日)(休館日)
10	月	(休館日)	24	月	(休館日)
11	火		25	火	緑の国勢調査
12	水		26	水	
13	木	デッサン教室	27	木	
14	金	デッサン教室	28	金	
			29	土	プラネタリウム
			30	日	(休館日)

★☆☆行事案内☆☆★

●星を見る会「秋の星座」

秋の星座のさがし方を覚えましょう。また、西の空に残る木星などを、望遠鏡で観察します。
 日時 10月19日(金) 18時～20時
 場所 博物館科学教室
 参加自由。当日直接科学教室にお集まり下さい。

●体験学習「紙をすこう」

日時 10月28日(日)9時～15時
 場所 博物館科学教室
 材料費 500円
 申し込み 10月15日までに、往復はがきで博物館まで。(多数の場合は抽選により20名までとします。)

平塚の年中行事

9 地神講

暦をみると3月と9月の存分、秋分の近くに「社日」(しゃにち)という日があります。この日は平塚周辺では地神講(じじんこう)が行われる日となっています。これは講という名が付いていることからわかるようにムラの中の町内や部落の行事です。現在では、市内では下島や小鍋島、大島、横内、丸島などで行われているだけとなっていますが、かつてはどこのムラでも行われていました。

地神講の内容は、ムラによる違いが多少ありますが、全体的には①講員の家を順番に会場として社日の夜に各家の主人が集まり、地神の掛軸をかけて飲食する。②講員がお金を出しあい、クジびきをして当たった人がこのお金で鎌などの農具を買う。またはあらかじめ鎌などは買って置いて、クジびきで当たった人がもらえるという内容をもっています。

具体的には、たとえば下島では、下庭、四ツ家、上庭と西庭の3つに分かれて地神講があり、それぞれ春秋の社日の夜に輪番制の宿に集まり、地神の掛軸をかけて拝み、飲食をして農業に関する話をいろいろするといわれています。丸島では5組の地神講があり、やはり春秋の社日の夜に宿に当たった家へ集まり、ヒョウゴ(表具=掛軸)をかけて灯明をあげ、飲食をしているとのこと。

また、真田では社日に宿に集まって床の間に掛軸をかけ、醤油御飯を食べ、さらにあらかじめお金を出しあってマンガ(万能鎌のこと)を買っておき、クジで当たった者がもらったそうです。北金目では、同じようにしてクジで当たった者が鎌や鎌を買えるお金がもらえたので、この講を鎌講といい、神田地区の各ムラでも鎌、マンガ、小便桶などの農具を買う掛金をし、クジで順番にもらえるようになっていたので、地神講を鎌講といったとのこと。

さて、このような内容をもつ地神講の地神というのは、文字どおり地の神で、農業の神だと考え



られています。先の北金目では、地神講の日は1日、田の仕事はしなかったともいわれていますが、これは社日は地神=農業神を祭る日だから仕事をしはいけないという意味です。さらに下島のように地神講に集まった時は農業に関する話をするしたり、市内各地で行われていた掛金をして鎌などの農具を買うといった無尽も、地神講が農業神を祭る講であることに由来しているわけです。

地神は、全国的にはジジンのほか、ジガミ、ジノカミなどともいわれ、その性格はさまざまですが、関東地方ではジジンといって農業神と考え、春秋の社日に地神講をするというのが広くみられます。こうした行事は、中国から春分、秋分にもっとも近い戌(つちのえ)の日を社日とし、社日の「社」は大地の神を意味するという考え方が日本に受け入れられ、関東地方では地神講に発達したということが出来ます。ところが地神については仏典にも堅牢地神(けんろうじじん)、地神があり、地神が農村に受け入れられ、地神講が形づくられる過程では仏教の影響もみられます。市内豊田宮下の八幡宮には写真のように「堅牢地神」と彫られた石塔(天保12年)があり、平塚で行われている地神講にも仏教上の地神との混同がみられます。

(学芸員小川直之)